

「また明日！」と言える学校に

新年明けましておめでとうございます。昨年末からお正月にかけて晴天が続き、穏やかな2025年の幕開けとなりました。今年の干支は巳(み・へび)。巳は、神様の使いとして大切にされてきた動物で、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルになっているそうで、巳年である今年は、蛇のように再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく年と言われています。

さて、本校は1月8日に令和6年度の後期が再開し、久しぶりに子どもたちのにぎやかな声が校舎に戻ってきました。まだまだインフルエンザの猛威がおさまる気配はありませんが、子どもたちは元気いっぱい。お友達や先生たちとの再会を楽しみにしていた様子で、クリスマスやお正月の様子を教えてくださいました。そんな中うれしいニュースが飛び込んできました。

病みあがり やっと会えるぞ 友たちに

これは、毎年有明新報が企画する「有明新年文芸」に、本校高等部一般学級1年 宮村綾 さんが応募した作品で、見事ジュニアの部で入賞しました。(1月1日付有明新報に掲載されています。)

昨年末は、インフルエンザに罹患した子どもや職員が急増し、一部の学年を除いて、閉鎖を余儀なくされました。ちょうどその頃の気持ちを表現したものだと思います。「友達にやっと会える喜びが素直に表れています。うれしさがあふれています。」 選者 城後 朱美 氏の選評のとおり、友だちとの再会を心待ちにしている生徒の思いがあふれていて、心がほっこりします。

子供たちにとって、学校(生活)はかけがえのないものであり、授業が終わったら「また明日ね!」と笑ってさよならができる学校にしなければと改めて思います。本年度も残り3か月。1年間のまとめの時期ですし、小学部6年生、中学部3年生、高等部3年生にとっては、それぞれのクラスメートと過ごす最後の3か月です。それぞれが互いを尊重し支え合う中で、互いに高め合うことができるよう、安心して学ぶことができる集団づくりにさらに努めたいと思います。

「巳年」の今年。蛇が脱皮しながら成長していくように、子どもたちが新しい経験や学びを通して成長し、自分自身を再生させ、さらに一歩前に進むことができるよう、力を尽くしたいと思います。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

令和7年1月 荒尾支援学校長